

高 崎 市 立 高 崎 経 済 大 学 附 属 高 等 学 校			学 校 評 価 一 覧 表			(令和6年度版)		(別紙様式)	
羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート等				総合
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 大学、NPO法人、企業等外部との連携により、充実した教育活動しようとするか。	① 外部機関との連携により充実した教育活動をしていると感じる生徒が85%以上である。	・TSUBASAプロジェクトでは、総合的な探究の時間でNPO DNAと、文系オナープログラムでは高崎経済大学・県内外の企業・経営支援NPOクラブ、理系オナープログラムでは群馬大学・前橋工科大学・足利大学・その他研究機関と、またコラボリレー講話等で様々な外部機関と連携している。それらを生徒や保護者に周知する。	A	A	A	「外部機関と連携を図っている」と回答した生徒が、昨年度は 80.9%であったが、今年度は第1回が 90.4%、第2回が 87.7%、平均で 89.1%と、大幅に上昇した。具体的数値目標である 85%以上を昨年度は達成できなかったが、今年度は達成できたので、評価をAとした。これは、オナープログラムで多くの外部機関と連携していることや、各学年で行う総合的な探究の時間でNPO法人のDNAと連携していることが、生徒や保護者に周知された結果と考えられる。また、Webページで多くの活動について発信したことも良かった。来年度はDNAとの連携が終了し、学年全体の連携事業はコラボリレー講話のみとなる。引き続き様々な外部機関と連携を図っていきたい。	大学や企業と連携することで、学校の探究活動やキャリア教育の充実につなげたり、講師を招いての講演会等ができていて良い。またオナープログラムは充実していて、オナークラスの活動や発表は素晴らしい。欲を言えば、オナークラスの生徒に限らず、学年全体においても連携事業の充実を図ってほしい。	
	2 国際交流の機会をつくり、国際理解に努めていますか。	② 対面国際交流会、米国研修などの実施において、国際理解の場があると感じる生徒が90%以上である。	・米国研修の内容を更に良いものとする。台湾研修を新たに計画・実施する。地理歴史、公民、外国語科等と連携し、異なる文化や言語に対する理解の充実を図る。生徒にとって充実した交流が行えるように海外の高校生の本校への訪問を計画・実施する。	A	A	A	「国際交流の機会を作り国際理解に努めている」と回答した生徒が、昨年度は 87.3%、今年度は第1回が 91.1%、第2回が 93.2%、平均で 92.2%と昨年度より上昇し、具体的数値目標の 90%以上を達成したので、評価をAとした。8月には外務省「高校講座」があり、外交官の仕事に触れ、外交政策や国際情勢等に対する関心や理解を深めることができた。12月に行われた香港の高校生との対面交流は、希望者が66名いたが、人数の関係で2年生28名のみの参加となった。また、今年度より新たに台湾研修が実施され、22名が参加した。米国研修は昨年に引き続き人気があり28名の希望があった。課題は、物価高騰や円安により渡航費用が高騰していることや、引率者が昨年から1名になったことが挙げられる。来年度も引き続き国際理解の場を確保したい。	英語教育、国際理解教育についても充実しており、良いと思う。幅広くいろいろな国や地域と交流ができています。オンラインを活用して海外の学校と交流を図る機会があってもよい。ぜひ今後も積極的に国際理解の場の確保に努めていただきたい。それぞれの取組内容について、保護者がより深く知る機会があるとよい。	
	3 キャリア教育の充実に努めていますか。	③ 社会に出て役立つ能力・態度が身に付いたと感じている生徒が80%以上である。	・各学年で生徒の伸ばしたい力を明確にし、3年間の見通しを持った進路行事を開催し、行事後には必ずアンケートを実施し、生徒自身が振り返る機会を設ける。	A	A	A	「キャリア教育の充実に努めている」と回答した生徒は第1回で 30.7%、第2回で 34.3%であり、キャリア教育が充実していると感じた生徒の割合は増加した。夏休み以降、希望者対象の進路行事に参加した生徒も多く、自分から積極的に行動できる力が生徒に付いてきており、それを実感している生徒も増えている。キャリアパスポートを活用して、細かく記録を残すことを徹底していきたい。学校生活を保護者の方へ伝える方法についても、ClassiだけでなくWebページを活用していきたい。	重点的に指導する学年を1、2年生に絞り、できるだけ早期に生徒が進路目標を持てるようにするとよい。年間計画を見直し、新たな行事を始めてより今まで実施してきた行事を廃止したりするなど、常に課題意識を持ちながら教職員の連携を強めていく必要がある。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 工夫して分かりやすい授業を行っていますか。	④ 授業での説明が明解で分かりやすいと感じる生徒が80%以上である。	・年2回実施する授業アンケートや予備校研修、授業参観等を活用し、授業改善に努める。	A	A	A	「先生方は工夫して分かりやすい授業を行っている」と答えた生徒は、第1回で 88.2%、第2回で 86.7%であった。評価としては高いと言える。今後は、理解した知識を活用する能力の向上を目指し、更なる授業改善に取り組んでいく必要がある。	授業に対する評価は総じて高いようだ。日常的に ICTを活用した双方向の授業展開や生徒同士の学び合いが行われていることがうかがえる。	
	5 発表する場面で、表現力の育成に努めていますか。	⑤ 授業や学校行事等で発表する場面での表現力が向上したと感じている生徒が80%以上である。	・授業や学校行事等で、生徒が発言する場面や ICTを活用した発表の場面を多く取り入れることで、生徒の表現力の育成に努める。	A	A	A	「学校は発表する場面を設定し、表現力の育成に努めている」と答えた生徒は、第1回で 82.1%、第2回で 82.4%であった。中学生対象の学校説明会では、生徒会やオナークラスの生徒を中心に高経附の魅力を十分に伝えることができた。今後は、授業内での発言を引き出す機会を更に増やすとともに、文章などによる表現力・発信力についても向上させていきたい。	オナー活動などもそうだが、発表活動を行うことは、生徒が表現力を育成していくのに非常に効果的である。そのため、様々な場面でより多くの生徒に発表の場面を設けていただき、生徒の表現力の育成に努めてもらいたい。	
	6 生徒の主体的な学びを引き出す授業を行っていますか。	⑥ 話し合いや、探究的な活動を取り入れ、生徒を積極的に授業に参加させるように工夫されていると感じる生徒が80%以上である。	・「主体的に学習に取り組む態度」の評価につながる学習活動の実践に努める。また、年2回授業参観期間を設定し、他の教員の取り組みを授業改善の参考にする。生徒に過度な負担がかからないよう課題の量を教科間で調整する。	B	A	B	「学校は主体的・探究的な学習を取り入れている」と感じている生徒は、第1回で 93.0%、第2回で 94.2%であった。ICT機器やワークシート、グループワーク等を活用するなど、授業内での生徒の主体的・探究的な学びを引き出す工夫は各教科でなされてきている。一方で、授業以外の場面で主体的に学習に取り組んでいる生徒は、まだ少ないように感じられる。今後は、生徒自身が見通しを持って自らの学び方を考えられるような指導が必要である。	授業では、グループワークなど生徒同士の意見交換が積極的に行われており、生徒の主体的な学びにつながるような工夫がなされている。今後は、授業以外の場面でも、主体的な学びを実践できる生徒がより増えるように、更なるご指導をお願いしたい。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 規則正しい生活習慣を身に付けさせていますか。	⑦ 遅刻をする生徒が学年平均で1日あたり3人以下である。	・担任等による面談を実施し、日々の生活に目的意識を持たせるとともに、必要に応じて家庭と連携した個別指導を行い、健康面を含む自己管理能力を高められるよう支援する。	C	C	C	12月末時点において、今年度の1日あたり遅刻者数は、1学年1.2人、2学年5.1人、3学年4.9人であった。遅刻が多い生徒に対しては、二者面談や三者面談など、きめ細かな指導を行い、生活習慣の改善を促している。全体的に、1学期よりも2学期に遅刻者が増加する傾向が見られる。疾病や体調不良による遅刻のほか、スマートフォンへの依存による生活習慣の乱れが原因となる生徒もいる。	学校主導の指導だけではなく、生徒自身がそれぞれの原因や改善策を考える機会を設けることも大切である。生徒が自分ごととして規則正しい生活習慣を確立したり、心身の体調を管理したりする力を養っていく必要がある。	
	8 交通規則を遵守し、交通事故を起こさないようにさせていますか。	⑧ 重大な交通事故を未然に防ぐ。保護者、警察署等と連携した交通安全運動を年3回以上実施し、ヘルメット着用率100%を目指す。	・校門指導、街頭交通指導、交通安全教室、生徒自身による交通安全運動等の実施。自転車通学許可条件として、ヘルメット所有及び着用を追加し、安全意識の向上を図る。	B	B	B	生徒アンケートの結果を見ると、90.2%が交通規則の遵守等について肯定的な回答を行っていた。12月末時点での交通事故件数は35件である。今年度は警察や市役所とも連携し、マナーアップ運動を年3回実施（県下一斉1回、本校独自2回）した。そのほか、警察による交通安全講話やスタントマンによる交通安全教室など、外部講師による指導を実施した。下校時や土日のヘルメット着用状況については、改善を図っていく必要がある。	不定期の街頭指導を行うなど、学校周辺以外での指導について検討してみてもどうか。学校外での行動に対する生徒の意識を変えていくことはなかなか難しいと思うが、引き続き根気強く指導を行ってほしい。	
	9 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨ いじめ発件数0を目指した教育活動に取り組み、「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と考えている生徒が90%以上である。	・職員研修の実施、情報の共有化、教育相談アンケート、個別面談及び生徒自身によるいじめ防止活動等、いじめ防止のための各種プログラムを実践する。	C	C	C	いじめ認知件数は4件（からかい、冷やかし、仲間外れ）である。今年度はいじめ防止の職員研修を6回実施した。うち1回は外部講師による研修であった。職員会議の際に行う生徒情報共有、学期ごとのアンケート、個別面談の複数回実施等により、いじめの予防と早期発見に努めている。また、希望者と生徒会役員が、高崎市いじめ防止会議やいじめ防止フォーラムに参加した。芸術コース美術系生徒が、いじめ防止ポスターを作成するなど、生徒自身によるいじめ防止活動も実施している。一部の生徒だけでなく、生徒全体がいじめ防止意識を高める必要がある。	深刻な事案につながっていないことが幸いである。引き続き、いじめ防止に努めてほしい。生徒や教職員に対し、どのような行為がいじめにあたるのか、いじめの定義を再確認したり、具体例を用いて考えさせたりして、理解を深めるとよい。いじめの有無について、生徒だけではなく保護者対象のヒアリング実施を検討してはどうか。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 生徒の進路意識の高揚に努めていますか。	⑩ 大学見学や職業人講話、進路講演会等の進路行事に積極的に参加したと自己評価できる生徒が80%以上である。	・大学見学会や合格体験発表会、進路講演会などの行事を通し生徒の進路意識を喚起し、学期に1回の進路希望調査や二者面談を通してきめ細かい進路指導を実現する。FWプロジェクトを各学年で展開し、学年全体の進路意識を高める。	A	A	A	「大学見学会や社会人による講話、進路講演会等の進路行事に積極的に参加したと思う」と回答した生徒は、第1回で 32.8%であったが、第2回では 37.2%と増加した。2年生は変化がなかったが、1年生と3年生では増加が見られた。生徒の希望する進路を実現させるためには、早期の進路指導が必要となる。1年生の第1回のアンケートで「はい」と答える生徒が40%以上になるよう、1年生1学期の進路行事や取組の見直しも必要である。企画数自体は既に多いので、新しい企画を考えるよりも既存の行事をブラッシュアップしていくことが必要となる。	学習合宿や大学見学、私大説明会などの進路行事や、平常補習などの日常の学習に関する取組は、他校と比較しても充実しているようだ。今後は、進路関係行事の精選・充実を進めるとともに、日頃の授業でも力を付ける取組をより強化することを目標に、教職員全体で授業を通した進路意識の向上に努めていってほしい。	
	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪ 自分の希望する進路を実現させるために、毎日の授業や部活動、その他の活動に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・平常補習や学習合宿の企画、自習室の開放など生徒が自ら進んで学習できるような環境を整える。進路講演会や学年集会を活用して、大学入試等の情報を生徒や保護者に伝え、生徒が努力する方向性を示す。	B	B	B	「自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいる」と回答した生徒は、第2回で大幅に増加して 43.1%だった。しかし、教職員と保護者については、第1回から減少しており、「生徒自身は頑張っていると思っているが、周囲から見ると十分な行動が伴っていない」という可能性も見取れる。進路実現に向けて、どうしても安易な方向に流れてしまう生徒も多いので、授業や補習、日頃の課題等を通して、目標に向かって一生懸命頑張ることができ「誠実な努力家」を育成していくことが重要である。	生徒は前向きに努力しているようだ。ただ、やらなくてはいけないことも多いため、目標設定がきちんとできず、能力を発揮できていない生徒も少なくないと思う。新たな面談期間を設定するなど、教員が生徒とのコミュニケーションを取る機会を増やすことも必要である。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 保護者や地域住民に向けて情報を積極的に発信していますか。	⑫ 保護者の80%以上が学校は積極的に情報を発信していると感じている。	・ClassiやWebページを活用し、より速く詳しい情報発信を行うとともに学校行事に地域住民を招待するなど本校について理解してもらう機会を作る。	A	A	A	積極的に情報を発信していると感じている保護者が、第1回で 89.0%、第2回で 81.7%、平均で 85.4%と、数値目標の 80%を超えたため、総合評価をAとした。主な情報発信ツールはClassiだが、今後は本校のWebページの更なる充実と部活動顧問等による迅速な情報発信にも努めていく。また、今年度の経費祭では多くの来場者があり盛況であった。来年度は、文化部発表会が実施されるので、地域住民を招待するなどの取組を行ってきたい。	保護者に向けての情報発信はClassiを通じて積極的に行うことができている。地域住民に向けての情報発信には、もっとWebページを積極的に活用し、学校の様々な情報を載せるとともに、より頻繁に更新ができるとよい。	
	13 授業公開、学校公開に努めていますか。	⑬ 本校保護者対象の授業公開や中学生対象の学校公開、学校説明会等で合計2,000人以上の参加を得る。	・生徒が中心となって本校の魅力を発信できるように企画・運営を工夫する。また、案内を本校Webページに掲載し周知するとともに、Googleフォームを活用することで、申込の簡略化を図る。	A	A	A	「学校は授業公開、学校公開に努めている」と感じている保護者は、第1回で 93.2%、第2回で 86.1%であった。また、中学生対象の学校説明会及び学校公開の参加者は、のべ 2,355名であった。今後も、授業公開やWebページでの情報発信を継続的に行っていきたい。また、新しい入学者選抜制度が始まり、志願者の動向が見えにくい中ではあるが、今後も、引き続き多くの中学生に本校の魅力を発信することで、本校への志願者を増やしていきたい。	保護者や中学生は、授業公開や学校説明会等で学校の様子をを知ることができるが、地域住民が学校の様子を知る機会が少ないと感じる。学校行事や授業の様子などを観てもらう機会をつくることで、学校と地域との信頼関係を築くことにも繋がるのではないかと。	
	14 保護者や地域住民から信頼される学校を目指していますか。	⑭ 地域住民や生徒の保護者の80%以上が、本校の教育活動を評価している。	・保護者会・教育振興会との連携を更に図り、保護者会や学校評議員会の提言を適宜検討し今後の活動に反映する。	A	A	A	「地域住民に信頼されようとする」と回答した生徒が、第1回 88.4%、第2回 81.7%で、平均 84.8%だった。同じ質問で保護者の結果は、第1回 91.6%、第2回 88.5%で、平均 90%となり数値目標の 80%を超えたため、総合評価をAとした。引き続き高い信頼を維持できるように指導を継続していく。また、学校評議員会の提言を検討し、保護者会・教育振興会との連携をより深めていくことが重要である。	高経附は自由な校風の印象だが、生徒が自律している。自転車のヘルメットは全体としてよくかぶっているほうだが、放課後、土日の部活動帰りなどにはしていない生徒も見かける。命に関わることで厳しめに指導してもいいのではないかと。また、多くの地域の人に行事などを見てもらえるとよいと思う。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	15 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮ 生徒の80%以上が、学習内容の理解を深めるためにICTの活用が役に立ったと感じている。	・教職員相互の授業公開の機会を活用し、教職員間で効果的な ICT活用方法の共有を図る。	A	A	A	各教科で工夫して ICT機器を活用しており、第1回調査、第2回調査とも生徒の 90%以上、教職員の 95%以上が、学習内容の理解を深めるために ICTの活用が役立っていると感じている。今後は「役立っている」という感覚が得られるだけでなく、実際に理解が深まったという感覚につながるよう工夫を継続していく必要がある。	ICTを活用することだけが目的とならないよう留意する必要がある。生徒が自らの理解や学びを深めるための一つのツールとして ICT機器をうまく活用できるように、引き続き工夫してほしい。	
	16 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑯ 保護者の80%以上が、学校からの通知の確認にICTが役立っていると感じている。	・教職員、保護者それぞれに伝達すべき内容が間違いなく伝わるよう、システムの運用を工夫する。	A	A	A	第1回、第2回調査とも 90%以上の生徒・保護者が、学校からの通知の確認に ICTが役立っていると感じている。これは、メールやクラウドサービス等の連絡を日常的に確認するというのが習慣化できているということでもあり。今後も引き続き ICTを活用して定期的な通知等配信していくことが大切だと考える。	ICTが連絡や情報共有のツールとして定着してきているので、引き続き情報発信を継続することが大切である。あわせて、発信内容のチェックや内容の精選等については、教職員への注意喚起を継続する必要がある。	
※ 安心安全な学校づくり	17 防災対策を職員・生徒に徹底していますか。	⑰ 生徒、保護者の80%以上が防災対策、安全点検に努めていると感じている。	・避難訓練や防災講話を通して、防災の意識を高めると共に、日々の学校施設点検を丁寧に行うことで二次災害を未然に防止する。	B	B	B	教職員・生徒に避難経路の確認をさせ、災害時に円滑に避難できるように、実践に基づいた避難訓練を行った。3月には自衛隊群馬地方協力本部を招き、南海トラフ地震等の大規模災害に備えるための講演を開催し、教職員・生徒の防災意識を更に高めていくことを考えている。次年度については、教職員を対象に、救急救命をはじめとする実践的な講習を実施していきたいと考えている。	教職員・生徒の防災意識を継続して高めていく必要がある。定期的な訓練に加え、日常的な危機管理や応急処置等について、教職員及び生徒の間で知識や技術を共有できるように努めてもらいたい。	
	18 情報セキュリティの強化に努めていますか。	⑱ メール送信、成績資料や個人情報資料の管理不備による事故の発生は0件とする。	・情報管理マニュアルの徹底、ダブルチェック機能の有効化、確認作業のシステム化を推進する。	A	-	A	情報セキュリティに関する職員研修や注意喚起を定期的に行い、教職員の意識高揚を図った。成績処理等の情報セキュリティに関わる業務におけるチェック体制や、メール送信方法のルール化の徹底等を図ると、今年度問題となるようなケースは発生しなかった。今後も定期的な注意喚起、研修会を実施することが大切だと考える。	学校は個人情報の管理に関して時段の配慮が必要な組織である。今後も、問題の有無にかかわらず、定期的に注意喚起と意識高揚を図っていく必要がある。	